2019 年（令和元年）漁期　沖合底びき網におけるズワイガニ漁の見通し

○推定資源尾数（鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖）

松葉がに…前年を下回り、平年（直近 3 カ年平均）並み。
若松葉…前年・平年を下回る。
親がに（雌）…前年・平年を下回る。

○今漁期の漁獲の見通し

2019 年漁期の TAC（漁獲可能量）割当量（870 トン）が、2018 年漁期当初の TAC（870 トン）と同量であるものの、期中改定後の TAC（925 トン）より少なく、今後の資源悪化対策として資源管理の強化を実施しているため、今漁期の漁獲量は、前年をやや下回ると見通す。

【解禁直後の見通しの根拠となった情報】

調査船「第一鳥取丸」による調査結果：9 月 30 日～10 月 24 日にかけて、山陰沖の水深 186m～436m の海域において、合計 24 の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました（図 1）。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数（単位＝万尾）は表 1 のようになりました。※ただし、2019 年の調査では、2016～2018 年の調査で使用していた網が異なるため、過去との比較が難しく、推定資源尾数が変わる可能性があります。また、例年調査している鳥取沖の 4 地点について、破網等により欠測となっており、鳥取沖の推定資源尾数が変わる可能性があります。

表 1　調査海域におけるズワイガニの推定資源尾数（単位＝万尾）

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	前年比	平年：2016-18平均	平年比
松葉がに（甲幅9.5cm以上）	51.5	54.7	88.7	65.0	73%	65.0	100%
若松葉（甲幅10.5cm以上）	345.6	364.5	478.4	290.9	61%	396.2	73%
親がに（くろこ）	230.9	229.0	222.4	142.3	64%	227.4	63%

※くろこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

松葉がに：前漁期の松葉がに漁は海況が良かったことなどから漁獲圧が高かったものの、若松葉漁の漁獲量制限により漁獲圧が低かった影響もあり、鳥取沖、隠岐北西沖で横ばい、出雲沖で減少したため、推定資源尾数は前年比 73%、平年比 100%となりました（表 1、図 2 左）。甲幅 9.5～12cm の小～中型個体が主体ですが、2016～2017 年に比べ甲幅 12cm 以上の大型個体が多く、2018 年並みに多い結果となりました（図 3，4）。

若松葉：鳥取沖で増加したものの、出雲沖、隠岐北西沖で減少し、前年比 61%、平年比 73%となりました（表 1、図 2 中央）。サイズは前年同様、甲幅 10～12cm 台の小～中型個体ですが、前年に比べ甲幅 12cm 以上の大型個体が少ない結果となりました（図 3，4）。

親がに: 出雲沖で増加したものの、鳥取沖、隠岐北西沖で減少したため、推定資源量は前年比 64%、平年比 63%となりました（表 1、図 2 右）。サイズは前年同様に甲幅 7～8cm 台の小～中型個体が主体となりました（図 3）。

【漁期全般の見通しの根拠となった情報】

（1） **鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移**　本県のズワイガニ漁獲量は 2004 年に 1,587 ﾄﾝまで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています（図 5）。2018 年漁期の漁獲量は松葉がに 297 ﾄﾝ、若松葉 46 ﾄﾝ、親がに 556 ﾄﾝ、合計 899 ﾄﾝで、前年（827 ﾄﾝ）及び平年（895 ﾄﾝ）を上回りました。

（2） **水研機構日水研調査（調査月：5-6 月）：**　国立研究開発法人水産研究・教育機構日本海区水産研究所（以下、日水研）は、日本海Ａ海域（富山県以西）における 2019 年漁期当初のズワイガニ資源量について、カタガニ（松葉がに）は前年を上回る、ミズガニ（若松葉）とメスガニ（親がに）は前年を下回ると推定しています（図 7）。

（3） まとめ　第一鳥取丸の調査結果から調査対象海域では、漁獲対象となるメスガニ、、オスガニともに、資源の減少が見られています。このような状況から、鳥取県沖合底曳網漁業協会は、兵庫県沖合底曳網漁業協会と協力して資源管理の強化を進めています。2017 年漁期は、隠岐西方海域に、2018 年漁期は隠岐北西海域にミズガニ保護区（周年の操業自粛）を設定しています。さらに、2019 年漁期は隠岐北方海域に 9 月 1 日～11 月 5 日に操業禁止区域を設定しています。また、2016 年漁期から開始した 11 月の休漁については、前漁期から 1 日間増やし、4 日間実施します。

今後の資源状況

第一鳥取丸の調査結果から雌雄ともに甲幅 7cm 未満の未成体の資源量が少なく（図 4）、資源水準は低下すると考えられます。第一鳥取丸は、日水研が但州丸で実施しているズワイガニ資源評価調査と合わせて出雲沖で並行操業も実施しており、同様の傾向が見られています（図 6）。また、日水研による資源評価調査では、日本海 A 海域（富山県以西）におけるズワイガニ資源量は、2021 年漁期にかけて低下すると予測されています（図 7）。このため、資源の減少を食い止めるための更なる資源管理に努める必要があります。

ホームページ　本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。

URL：https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1177192/kani2019.pdf

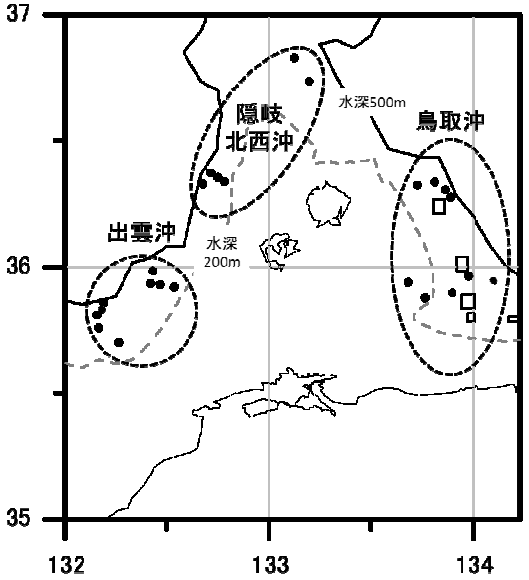


図 1　試験操業位置（図中黒丸が操業位置）

その他

2015 年漁期から「とっとり松葉がに」のうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売を開始しました。

（五輝星の基準）

大きさ	甲幅 13.5cm 以上
形　状	脚が全てそろっているもの
重　さ	1.2kg 以上
色合い	鮮やかな色合い
身入り	身が詰まっていること

2018 年漁期は約 53.4 万枚水揚げされた松葉がにの中から、101 枚（平均 5.1 万円/枚）が五輝星に選定されました。本調査結果から今漁期は、大型の松葉がにが前漁期並みに多いことが予測されており、前漁期並みに五輝星が市場に並ぶ可能性があります。

図 2　年別海域別の資源尾数（2015-2019 年：平年は 2016-18 年平均値）

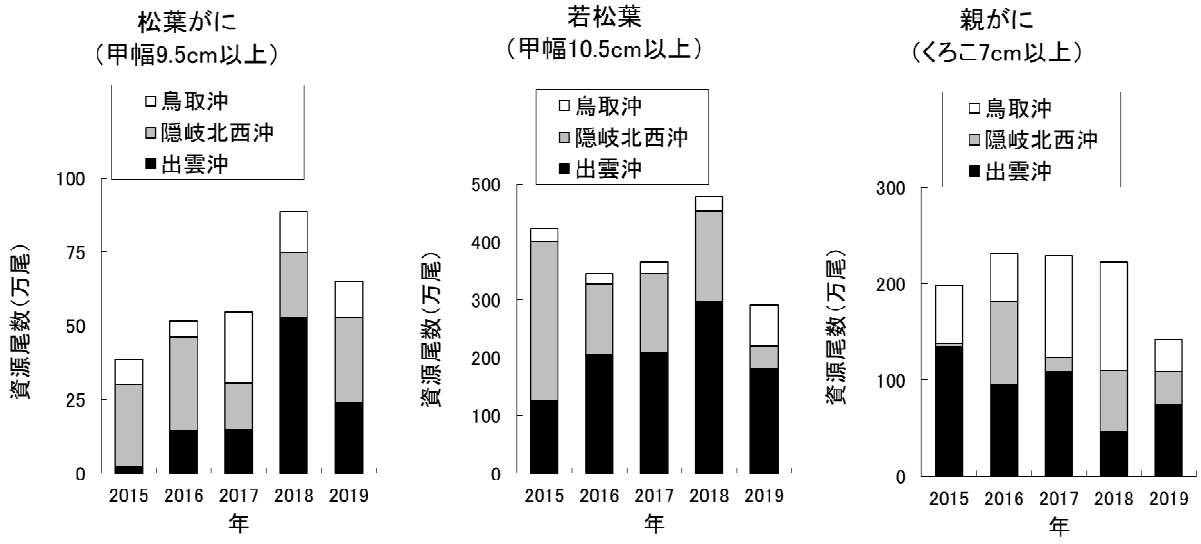


図 3　トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移（2016-2019 年）

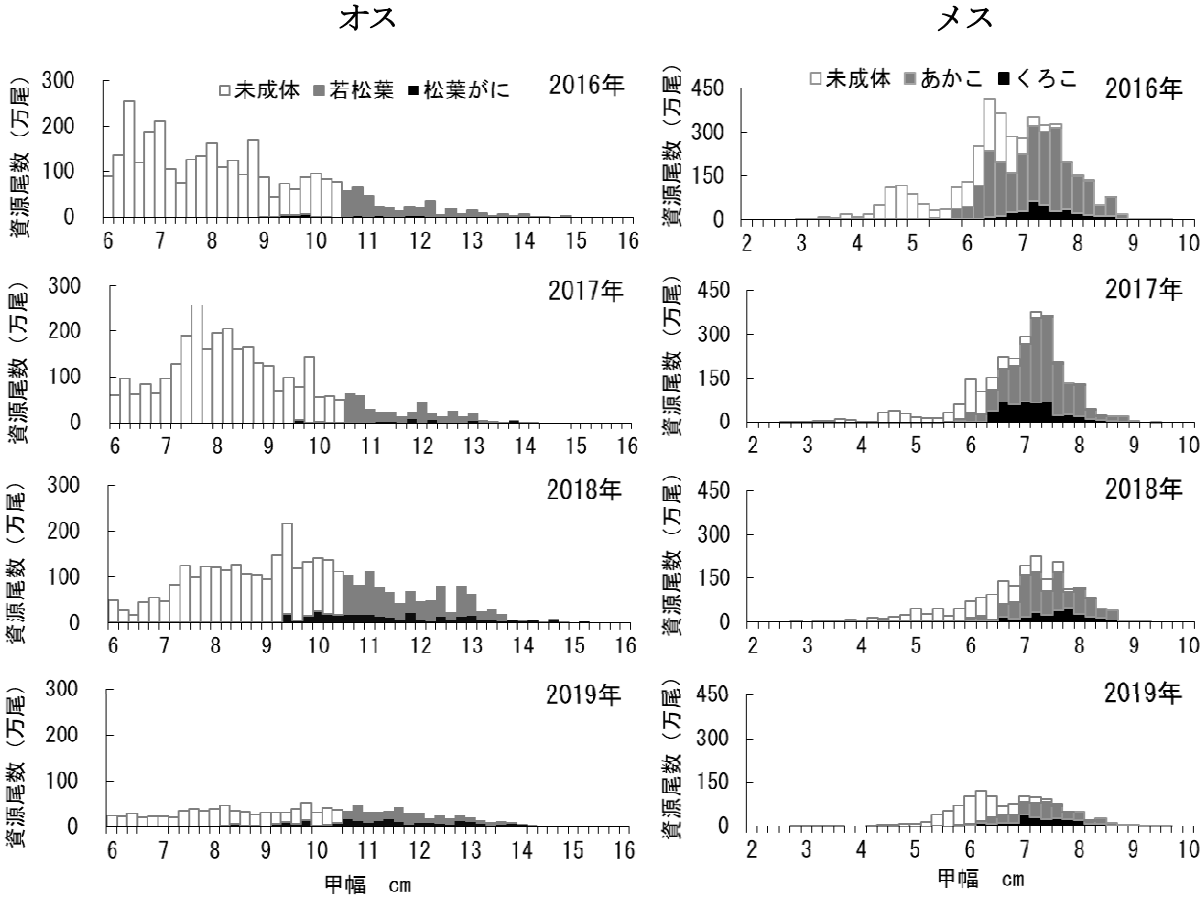


図 4　トロール網による調査海域全域における漁獲物サイズの雄ズワイガニ甲幅組成の比較（2017～2019 年）

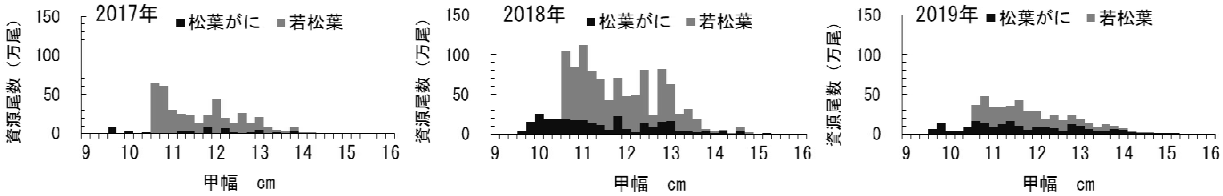


図 5　鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年：11 月 6 日～翌年 3 月 20 日）

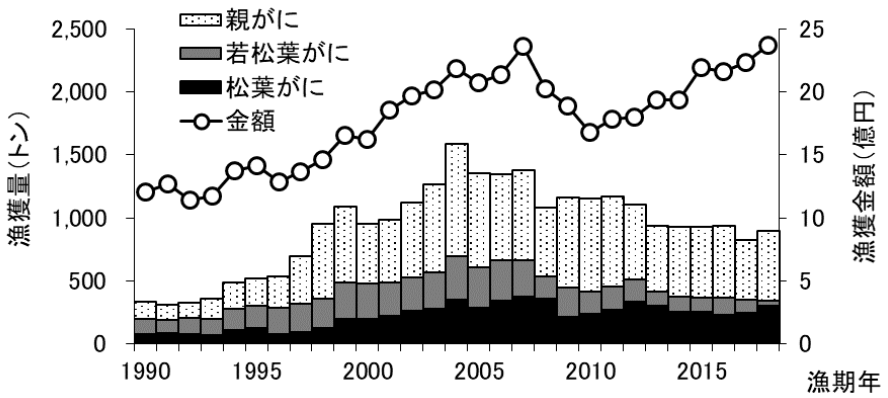


図６　第一鳥取丸による 2016～2019 年 5 月の出雲沖におけるズワイガニの甲幅組成の推移

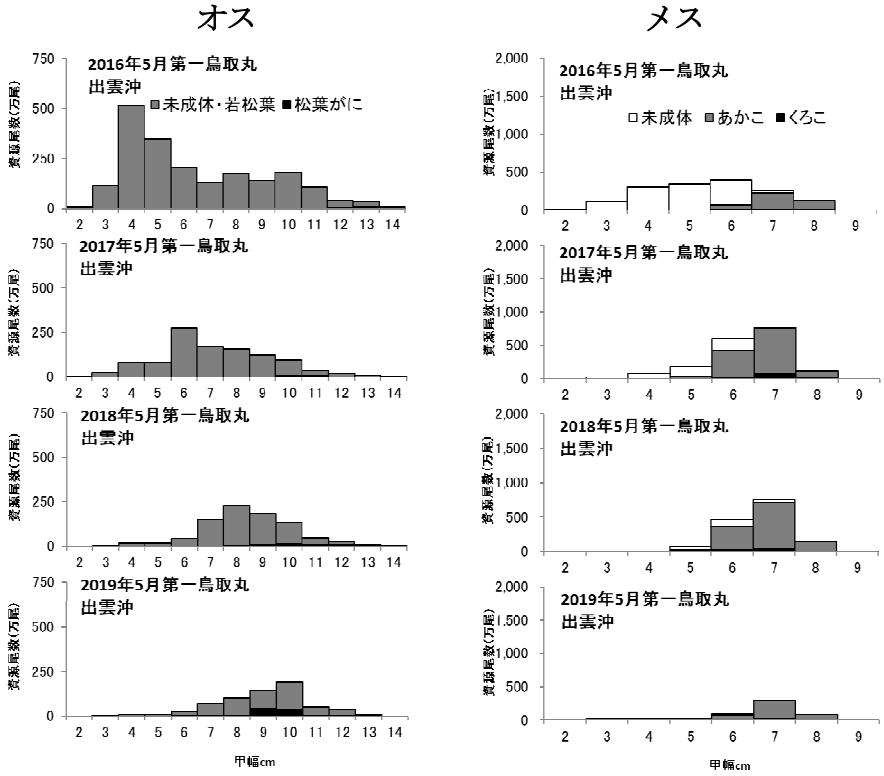
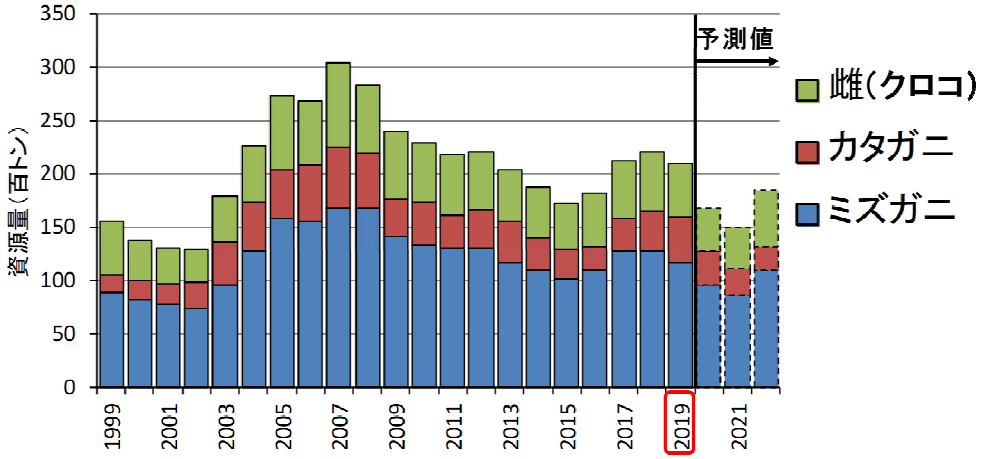


図７　A海域（富山県以西）におけるズワイガニの推定資源量

国立研究開発法人　水産研究・教育機構　日本海区水産研究所資料